

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	871800223		
法人名	株式会社 ほーむけあいしやま		
事業所名	グループホーム想想		
所在地	坂東市岩井2039 (電話) 0297-47-5155		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	茨城県水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館2階		
訪問調査日	平成19年5月29日	評価確定日	平成19年11月6日

## 【情報提供票より】(平成19年5月9日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月16日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤6名 兼務1名 非常勤1名	

### (2) 建物概要

建物構造	木造作り	造り
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	月額33,000円	その他の経費(月額)	48,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	300円	昼食 450円
	夕食	450円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200円

### (4) 利用者の概要(5月9日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1	要介護2	3		
要介護3	2	要介護4	3		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 84.1歳	最低	66歳	最高	99歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	河村医院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは小規模多機能ケアホームを併設しており、本人や家族の状況により、馴染みの関係を大切にしながら、通い・泊まり・入所と柔軟に対応できる体制となっている。設置法人は8つのグループホームを県内に有しており、勉強会や交流会を定期的に実施しており、年一回の困難事例を発表する時には、著名な講師を迎え、事例に対する講評を得ているが、その場で発表することが、職員のやる気や利用者のサービスの向上につながっている。利用者は9名の少人数で、利用者一人ひとりのペースに合わせたケアを行っている。その人らしく暮らし続けるため、家事の手伝いや畑仕事、地域の行事の参加、買い物や散歩など、積極的に外出する機会を設け、地域の方々とも交流しているホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>時計は文字盤の大きいものに変えて見やすく、利用者の見当識が改善できるよう、配慮している。</p> <p>糖尿病を患っている利用者には、管理栄養士がたてた献立に沿って、食事を提供するなど、利用者一人ひとりにあった食事の提供を行っている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価や外部評価の内容を職員全員が把握しており、改善すべき事項についてチェック項目に落とし、改善に向けた取り組みを行うとともに、改善した事項については、職員間で報告し合っている。</p> <p>部門毎に設置法人関係者以外のスタッフを配置し、グループホームが透明・公平・中立している事業所を目指している。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>区長、民生委員、市職員、家族、施設管理者等を委員とする、運営推進会議を年3回開催しており、利用者や家族からのニーズや毎月開催している管理者会議やユニット会議での提案・改善事項等を議題に、ホームの質の向上に向けた検討を行っている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会を設置し、会議を開催し、利用者及び家族の意見や不安なこと、要望等の聞き取りを行い、出た意見等を運営に反映している。</p> <p>利用者の暮らしぶりや月々の行事を写真に撮り、家族の面会時に、写真を見せたり、状況等を報告している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>中学生の職場体験学習を受け入れており、学生の福祉教育に貢献している。</p> <p>老人会・自治会・商工会に加入し、会議や各種事業の参加等、ホームの役割や地域の支援・協力を得ている。</p>
重点項目④	

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームでの生活は、利用者を尊重し、利用者一人ひとりの能力を最大限に引き出しながら、ボランティアの活用や隣接する幼稚園等との交流を図るなど、地域に根ざしたホームとなるよう、取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の生活の中で、管理者と職員は、理念について話し合いを行っている。 理念を掘り下げて利用者や家族一人ひとりを尊重し、個々の能力を引き出す働きかけを行っている。 身体的・精神的な拘束感のない、のびのびした生活が送れるよう、支援している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは、幼稚園・小・中学校に隣接しており、それぞれの行事に利用者が参加し、子ども達と交流している。 また、老人会・自治会・商工会に加入し、会議や各種事業の参加等、ホームの役割や地域の支援・協力を得ている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の内容を職員全員が把握しており、改善すべき事項についてチェック項目に落とし、改善に向けた取り組みを行うとともに、改善した事項については、職員間で報告し合っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、民生委員、市職員、家族、施設管理者等を委員とする、運営推進会議を年3回開催しており、利用者や家族からのニーズや毎月開催している管理者会議やユニット会議での提案・改善事項等を議題に、ホームの質の向上に向けた検討を行っている。 参加メンバーからの意見や要望・質問を受け、今後の取り組みに生かしている。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には、市の職員も委員として出席しており、適切な助言・指導を受けている。 また、利用者に応じた適切な助言が受けられるよう、定期的に連絡を取っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや月々の行事を写真に撮り、家族の面会時に、写真を見せたり、状況等を報告している。 家族会を設置し、会議を開催し、利用者及び家族の意見や不安なこと、要望等の聞き取りを行い、出た意見等を運営に反映している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に苦情の受け付け窓口や担当者名等を家族に知らせている。 また、不満や苦情等はその都度受けるとともに、会議に家族が参加し、そこで出た希望や要望等を運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者はボーリング大会・忘年会等の福利厚生の実施を図るとともに、法人内研修を定期的に行い、職員が意欲を持って働けるよう、職場の環境を整えている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の段階や資格に応じてスキルアップが図れるよう、各種研修に派遣するなど、職員の能力意欲に合わせた人材の育成に努めている。 職員からの提案により、研修内容を取り決め、講師を招き法人内研修を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回、市の介護サービス協議会に出席し、交流の中での学びをサービスの向上に取り入れている。 茨城県グループホーム連絡協議会に加入しており、研修会などで他のホームの職員と交流する機会を設けている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に家族から利用者の習慣や好みの聞き取りを行ったり、宿泊体験やショートステイの利用など、利用者がホームに馴染めるよう、安心して生活できるよう、環境づくりを行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と生活をともにする中で、介護するばかりでなく、利用者が得意なことを教わるなどにより、支えあえる関係を構築している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意志の伝達が困難で、ニーズの把握が十分とはいえない利用者には、表情や仕草・行動・言語（独語）などにより、把握している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や医師等の意見を取り入れ、主に本人の要求に応じた介護計画を作成している。 入浴等を本人が希望しない場合は、部分浴や足浴から徐々に全身浴に導けるよう、実践している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	おおむね3ヶ月に1度、介護計画の見直しを行うとともに、利用者の身体や行動に変化が見られたときは、経過観察を行い、状況に応じて随時の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	敷地内にショートステイ、デイサービスを併設しており、日常生活や行事の開催などで交流を図るなど、事業所間の連携を図りながら、柔軟に活用している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が利用者一人ひとりの健康状況・認知症の変化を十分把握しており、適切な医療支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応について、本人・家族・医師と十分に話し合いを行っている。 医療機関への入院や終末期の対応に関する同意書を、本人や家族と取り交わしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄時や衣類の着脱時にプライバシーを損なうことのないよう心掛け、笑顔とやさしい言葉かけに留意した支援を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に添ったケアをモットーとしており、一人ひとりの特性を生かした、無理のない支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と食事担当職員と一緒に下準備・調理・配食・摂食し、無理のないよう、後片付けも楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	季節に応じて菖蒲湯やシャワー浴、入浴剤の使用等により、利用者が快適で、安眠できるように、入浴時の工夫をしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	華道や和裁が得意な利用者や農家の方など、利用者の過去の経験を把握するとともに、充実した生活を送れるよう、場面づくりの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	市内のスーパーなど、利用者の希望に応じた場所へ買い物に出かけている。 金銭の支払いが可能な利用者には、お金の支払を頼むなど、力量に応じた支援をしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は日中オープンにしてあり、玄関の鍵は掛けていない。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム独自に防火・避難訓練を実施しているが、地域との協力や合同訓練を実施するまでには至っていない。	○	災害があった時には、近隣の小・中学校とも連携が図れるよう、話し合いの場を設けることを提案するとともに、利用者に応じた食料や飲料水を備蓄するなどの災害対策への取り組みを期待する。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況を観察・記録している。水分の摂取量も様式を作成し、記録している。 入所時、肥満傾向だった利用者が体力・健康を保持しながら、10キロ以上の減量に成功している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口の植え込みや中庭の植栽が、利用者や来訪者にとって清涼感、季節感を醸し出しており、居心地の良い空間となっている。 居室や居間から周辺の自然が眺めることができ、学校の始業チャイムや休み時間には子ども達の声が響くなど、五感を研ぎ澄ます心地よさが味わえる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家から使い慣れた物品等を居室に持ち込み、安心感のある、居心地良く生活できる環境となっている。		

※  は、重点項目。